

賀茂神社は、南部町倭にある神社で、古くから阿賀庄七カ村(原・小原・猪小路・新庄・北方・阿賀・



社 殿



第 17 号

発行
天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会
印刷
米子ワークホーム

下阿賀)の産土神うぶすなかみとされており、現在は長田集落を含めて八集落の産土神です。

創立年代は不詳ですが、京都の上賀茂神社の分霊を大平山の山頂に祀ったのが始まりと伝えられ、のちに同山中腹の小平に移し、さらに現在地に三遷し、万治三年(一六六〇年)に再建したと伝えられています。

現在最古の棟札には「天奉再建伯州会见郡新庄村賀茂大明神一宇、萬治三庚子曆(一六六〇年)卯月吉辰日 新庄村神主河内守」とあります。

戦国時代には尼子経久の崇敬を受け、社領百石の寄進があり、そのほか度々参拝して祈願、奉幣、社殿造営をしたと伝えられています。享保十八年(一七三三年)鳥取藩主池田氏によって社領十石を寄進されました。天保五年(一八三四年)の寺社領帳(藩史)に「先役

山田弥兵衛併在方証文、一、外高十石、原村加茂大明神領」とあるのは当社のことと思われます。

境内社には糺神社ただすと鷺神社さぎがあります。糺神社は当賀茂神社と同時期の創建といわれ、賀茂両社とか賀茂上下大明神などと称されました。鷺神社は島根県境、猪小路の北の渡田ノ峠にあり、疱瘡神として信仰され、池田氏の祈願所でもありました。

拜殿に張られる大注連縄は傷みの状況をみてその都度、原集落が取り替えるしきたりとなっています。原の氏子全員が奉仕により作製し、奉納するときは担ぎ隊列を組んで集落中で奉納します。最近では平成二十四年に行われました。

例大祭は、十月十九日。現在は、春の例大祭は四月十九日、秋の例大祭は十月十九日となっています。以前は境内地にある土俵で相撲が行われ、榊席は氏子が良い場所を確保するために競ってお金を出したり、自分のお気に入り力士におひねりをあげたりされていたようです。

以前は、賀茂神社参道入口に御神燈の石燈籠があり、地面より約五、七メートルの高さで、立派な彫刻も刻まれていました。右にあっ

たのが明治二十三年九月、左にあったのが明治二十四年五月と刻されていました。また、旧法勝寺電车道をはさんで御神燈から二十メートルほどの位置に鳥居もありました。宝暦三乙亥年(一七五三年)六月と刻されていました。しかし、平成十二年にあった鳥取西部地震によりすべて倒れてしまい、現在は新しい燈籠のみが立てられています。(渡邊 悦朗)



鷺 神 社



糺 神 社



厳選された品々が並ぶショップ



ゆっくりとした時間が過ごせる店内

あまつのお店紹介
おちらと庵さえき
(四季)

四季団地内にある「おちらと庵さえき」におじゃまさせてもらいました。

二〇〇四年に自宅をセレクトショップとしてお店を始められ、五年前にご主人が退職されたのをきっかけに、ご主人がやりたかったカフェとランチを合わせたギャラリーをされるようになったそうです。

玄関入ってすぐの部屋には、ショップがあり、奥様が選ばれた品々が展示してあります。奥に入ると、店内は自然の中にあるような癒しの空間が広がり、ここで毎月開催されるギャラリーを眺めながら、お茶を飲んだり、お食事を楽しむことが出来ます。

九月は、服部麻知子作品展「自然と染と織を楽しむ」が開催されています。皆さん癒しの空間でゆっくりとしたひと時を過ごしてみたいかがでしょうか。

〈営業案内〉

午前十時～午後五時

定休日：日・月曜日

※ランチは予約が必要です。

0859・66・2004

(佐伯 明日香)

天津地区納涼

ゴルフ大会

ふるさと交流センターの運動場が芝生化されたことを記念して、七月二十八日午後四時～天津納涼グラウンドゴルフ大会が開催されました。

グラウンドゴルフは、鳥取県泊村で開催され、各ホールポストに入ると「トマリ」と言います。全国で三百万人の愛好者がいると言われていますが、ルールが簡単で、プレー時間の制約がありませんから、誰でも参加できることが一番の特徴です。また、早足でもゆっくり歩いても、その日のコンディションにより個々で調整すれば良いのです。



坂根チーム

この大会には約百名の参加がありました。初めてプレーした人は多分やみつきになると思います。各ホールポストに入るまでの打数を競うものですが、力の入れ具合でポストを行ったり来たり、時には一回で入れてホールインワンを出す人も。激しい動きがない分運動量は少ないかもしれませんが、続けることで運動不足の解消にもつながります。何人でもプレー可能ですので、皆さん一緒にやりましょう。

(大塚 賢一)

地域の行事

福田神社宵祭り 三十周年

谷川にある正八幡宮福田神社の境内でおこなわれる宵祭りは、昭和五十八年から始まり、今回で三十回の記念大会を迎えます。

地区内の老若男女が境内に集まり、毎年テーマを設けて、歌やお笑い、演芸や踊りを披露します。運営は実行委員会を立ち上げ全ての予算は寄付でおこなっています。全国的に名をはせた芝オケはこの宵祭りから誕生しました。

全てが手作りで、のぼせもんたちの情熱が宵祭りを盛り上げます。平成二十一年からは、「福が成る成る谷川音頭」を自主制作し祭りで踊っています。継続は宝だと思いますが、毎年中断することなく続けた宵祭りは、地区の人々の結束力の証として自慢が出来ます。

今年の宵祭りは、九月十六日(日)十九時三十分から福田神社境内で行われます。なお、雨天の場合は、ふるさと交流センターで行います。
(野口 隆資)



谷川音頭

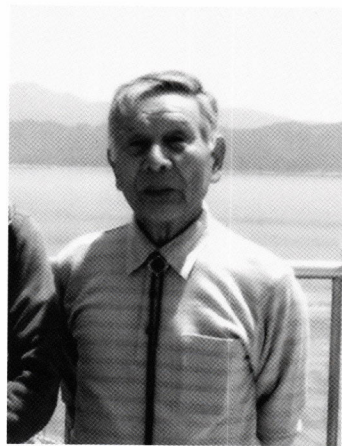


20周年記念集合写真

あの人この人

天津公民館館長

丸山 計 信 (境)



思い出の「天津公民館」

旧天津公民館から平成四年にふるさと交流センターに移転となり、膨大な事務量(翌年から常勤専任設置)と建物管理に追われ、多くのエネルギーを費やし、前を見て一歩一歩、取り組んで参りました。その中で印象に残ったものを挙げます。

一、公民館移転作業から

先輩の皆さまが築かれた多くの財産(伝統・匂い・書類・備品・樹木など)の移転には、留意し特に現在は、交流センター玄関前の広場にそびえ立つ大木(楠木)は、私たちの活躍を昔も今もそのまま

見守り続けている事と想います。

二、文化祭開催では

こんな素晴らしい建物が出来たのだから…と講演会、コンサート、各種コーナー、作品展示、野外展等など広範囲内容のため、各代表者との交渉、出演者との調整、会場設営など不慣れ且つ、多忙な出発点の記憶が、よみがえってきます。

在任中多くの人々から、豊富な話題・ご協力・励まし・元気を頂き「であい」「ふれあい」の日々に恵まれた十年間でした。



天津地区公民館 文化祭



建立式式典 (7月10日)



「イザナミ墓苑の閃き」と題して
講演される新納理事長 (ふるさと交流センター)

母塚山観音



国生みの神様イザナギとイザナミの伝説が残る母塚山は、イザナミの聖地と云われています。その母塚山で観音さんの縁日にあたる七月十日、母塚山観音の建立式が行われました。

観音さんを建立した、米子市出身で東京在住の国立音楽院理事長の新納重臣にいのうしげおみさんは、「現世に呼び戻してほしい」というイザナミの声を聞き、母塚山からの風景を眺めて、太古の故郷はここだと閃き『イザナミ墓苑』の創生を決断したと話されました。高さ六m、台座からは十一mの観音さんはイザナミの生まれかわり、霊徳あらかな鳥取島根を代表する観音さんです。お慈悲の象徴として、安らぎと健康、平和と繁栄、天津の地にご利益があることを願っておられます。

(野口 隆資)



編集後記

旧天津小校裏にある忠霊塔に登ってみました。昭和三十年建立ですから半世紀以上私たちが住む天津地区を見守っているわけですが、ここから見える法勝寺川の流れと秀峰大山は今も変わらず、その姿を残しています。

天津平野の一面緑から、稲穂がたれて黄金色に変わる景色は、ここに住み育ったものが持つ財産です。

忠霊塔は天津出身で戦死された兵隊さん八十九名が祀っており、この高台から天津地区の発展を祈り、そこに住む人々の平和を祈っておられると思います。そんな天津の名所・旧跡・行事などをお知らせしていきたいと思っています。

(大塚 賢一)

